ふるさとの生活と信仰

お国自慢　人情あふれる
銚子ことば

白土義次
戸石四郎

「人情が厚いところ、それは銚子である」と、私は誇りにしている。なぜならば、自然や風土によって育まれたさまざまな方言が、日常の生活様式すべてに直接、間接に反映しているからである。〝自分が慣れ親しんだ方言には、美しいことばがたくさんある。方言と仲良くしよう〟これが私の持論である。「銚子ことば」で交流を深めている。といっても過言ではない。

しかし、初めて漁業者の威勢のよい「銚子ことば」に接した人は、その荒々しさに驚く、だが、一見粗野に受けとめられるが、会話の中にも、言いようのない温かさが込められている。親しみをもつ方言がきっかけで、会話が弾んだ体験、逆に誤解されたことなど、郷土色豊かな方言のプラス・マイナスはいろいろあろうが、先ずは都市化現象の中で消え去ろうとしている方言を集録したり、子供たちが方言に興味を持ち、自分たちの住んでいる町を見直してくれることに役立てばさいわいである。そこで、「銚子ことば」あれこれを紹介してみる。

情感あふれる会話（農業地域）

［姑］「あねさ、おだやに、あらもんが、のーどあっから、えーさ持ってけば、あまあまだから、ゆっくりして来(こ)およ」（姉さん、台所に新野菜がたくさんあるから、実家へ持って行ったら。雨雨(あまあま)だから、ゆっくりして来たら）

［嫁］「そいじゃ、でえじご様におめえりしてから出かけるよ。『やのあさって』に、けえって来るよ」（それじゃ大神宮様『神棚の意味』におまいりしてから出かけるよ。明々後日には帰って来るよ）

［農婦Ａ］「お天気でいいあんべーだね。いまなに

野菜などの運搬用「タガラ」を背負い仕事にはまりこむ（精出す）農夫

やってんの。あんまり力んで、からだをでーなしにしねえように」（上天気でいいあんばいだね。今どんな仕事をしているの。あんまり精出して、からだをこわさないように）

［農婦B］「あねさんが、ようがへ行っちゃったので、手がねえもんだから、日の暮れるまでに、おしめーにしねえど、ばんげの飯（めし）に間に合わねえからよー」（姉（あね）さんが飯岡『飯岡町』へ行ってしまったので、手がないものだから、日暮れまでに終わりにしないと、晩御飯に間に合わないから）

親しさいっぱいの銚子の「べえべえことば」

＝今年は豊作だから、われわれ年寄りが発起人になって、お祝いをやろう、とする会話＝

［老人A］「ことしゃ、あたり年だから、おいえーをしよう」（今年は豊作だから、お祝いをしよう）

［老人B］「よかっぺー、おんら仲間で、やっぺでねえか」（それはよいことだ、年寄り仲間でやろうではないか）

［老人C］「それがよかんべ、そいじゃ、おらがえーで、やっぺーでねえーか」（それはよいことだ、それじゃ、私の家でやろうではないか）

情感を盛り込んだ会話（浜地域）

［祖父］「きょうは大潮祭りだ、ほぎほぎ、祝（ほ）ぎ祝（ほ）ぎ食べなーよ。いつも、みんな、めすりになって、からだを使ってからなー」（今日は大潮祭りだから、腹一杯食べたら。

「おっぺし」
漁船を浜に押し出す人々